

中小企業景況調査結果

【平成29年7月～9月】

富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率68.0%)を対象に、
「平成29年7月～9月」までの3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別
にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…29年4月～6月 今期…29年7月～9月 来期…29年10月～12月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲14.9	→	▲14.2 (▲24.0)	↗	▲8.4
売上	1.4	→	▲0.7 (▲12.3)	→	2.9
採算	▲14.8	→	▲17.7 (▲13.1)	↗	▲11.9

今期調査では、全産業合計の業況・売上・採算DIともに横ばいとなった。来期予測については、全産業合計の業況・採算DIは上昇、売上DIは強含みの横ばい見込みとなった。来期は年末年始の需要期となるため上昇予測になったと思われる。

主要DIを産業別にみると、昨年度第1四半期より上昇基調であった卸売業が下降、来期においても業況・売上DIは下降を予測。一方、建設業の業況・採算DIは今期調査・来期予測とも上昇となり、景気ムードも建設業のみが「安定」となった。

経営上の問題点では、製造業・建設業が「人材不足」、卸売業が「過当競争」、小売業が「売上減に伴う利益減」が1位、サービス業では「過当競争」「売上減に伴う利益減」「設備老朽化」の3項目が1位となった。また、「人材不足」は全産業の上位に入っている。コメントにおいても人材不足や労働保護政策等による企業への負担を懸念する声が寄せられた。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 建設業は上昇。製造業、サービス業は横ばい。卸売業、小売業は下降。
来期は、製造業、建設業、小売業は上昇を予想。サービス業は横ばいを予想。卸売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲2.7	→	0.0 (▲27.7)	↗	13.2
建設業	▲9.4	↗	0.0 (▲15.4)	↗	10.3
卸売業	0.0	↘	▲8.7 (▲27.3)	↘	▲22.7
小売業	▲45.0	↘	▲50.0 (▲36.0)	↗	▲35.0
サービス業	▲32.0	→	▲29.2 (▲13.8)	→	▲30.4
全産業	▲14.9	→	▲14.2 (▲24.0)	↗	▲8.4

〔売上高のDI〕 製造業は上昇。建設業、サービス業は横ばい。卸売業、小売業は下降。
来期は、製造業、建設業、小売業は上昇を予想。卸売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	2.7	↗	12.9 (▲5.6)	↗	23.1
建設業	18.7	→	13.8 (▲3.9)	↗	24.2
卸売業	18.5	↘	4.3 (▲36.4)	↘	▲8.7
小売業	▲30.0	↘	▲35.0 (▲24.0)	↗	▲15.0
サービス業	▲15.4	→	▲16.6 (0.0)	↘	▲29.2
全産業	1.4	→	▲0.7 (▲12.3)	→	2.9

〔採算のDI〕 建設業は上昇。製造業、小売業は横ばい。卸売業、サービス業は下降。
製造業、建設業、小売業は上昇を予想。卸売業は横ばいを予想。サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲5.4	→	▲10.3 (▲16.6)	↗	2.5
建設業	▲15.7	↗	▲6.9 (0.0)	↗	0.0
卸売業	0.0	↘	▲13.0 (▲31.8)	→	▲8.7
小売業	▲50.0	→	▲50.0 (▲24.0)	↗	▲40.0
サービス業	▲15.4	↘	▲20.8 (3.6)	↘	▲30.5
全産業	▲14.8	→	▲17.7 (▲13.1)	↗	▲11.9

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【低調】

『製紙』…「印刷用紙は需要の縮小により過当競争となっており、今後も厳しい状況は変わらないと思われる。」との声。「中国政府は資源ごみの大半を年末までに輸入禁止することをWTOに通知した。様々な影響が懸念されているが、古紙の調達に苦慮している製紙業にとっては朗報である。」とのコメント。
『紙加工』…「人材確保が難しく、特に20代の製造業離れが感じられる。これにより、今後は受注の制限が必要になる可能性もあり得る。」「交代勤務の人材確保が難しくなっており、設備投資によるオートメーション化が中小企業にも必須であると感じる。」との声。「業況は、ゆるやかに上昇しているが、大きな変化はないと思う。」「家庭紙は、夏場は非需要期のため在庫が増加。秋口からが本番となり、需要が増えていくものと思われる。」「家庭紙は各社増産計画があり、競争が激化すると思われる。」とのコメント。

『機械器具』…「メイン顧客（射出成形機メーカー）からの受注が好調であり、自社の受入量を超えている。向こう1年は好調が続くと思われる。」「トラック販売台数が前年同月を上回るのは3月以来である。中型トラックの販売台数が全体の数字を押し上げた。」との声。「運輸業においては、2018、2019年が東京オリンピック関連の輸送量増加がピークであると予測される為、トラック製造のピークはそろそろ過ぎると考えている。」とのコメント。「仕事量は順調に増加しているが、仕事量に対し加工業者が不足気味である。」「中小企業では、人手不足により事業の継続が困難となり、廃業する会社が増えてくると思われ、新しく外注先を探さなくてはならないなどの問題も出てくるだろう。」「10月以降の仕事量は増える見込みがあり期待できそうだが、人員・人材不足であり、募集をしても集まらない。」との声。

「当社の製品は、ある程度市場に浸透した為、横ばい状態である。数年後に低迷することが予測される。」「オリンピック需要に対する住宅建材の在庫が過多となり、頭打ちの感がある。」今後について「仕事量は現状維持、もしくは減少傾向に向かうのではないか。」とのコメント。

『機械部品加工』…「主要顧客の生産動向は国内向け、海外向けともに10%程度生産量を増やしている状況である。特に主要ユニットは、国内で製作したものを海外拠点へ輸出し、海外で組み合わせて完成させているようであり、その部分の生産量も増えている。」との情報。「前年同期との比較では順調に伸びている。今後もこの状況で推移すると思う。」「自動車部品は昨年と変わらないと思うが、来期は多少の伸びはあると思われる。」との一方「原材料等の仕入価格が上昇する中で、受注価格または販売価格が下げられているため、不採算製品が増加し、経営を圧迫している。」との声。

『食料品』…「小売店や問屋の合併が今後も進み、流通の変化は止まらない。」「全体的に消費は減少している。」「後継者不足が深刻化している。」との声。「製造現場の人手が足りず、募集をかけても全く反応がない。最低賃金の底上げ、労働保護政策も良いが、企業経営が健全でなければ実現できないと思う。厳しい環境に置かれている中小・零細企業への手厚い政策を優先すべきではないだろうか。」とのコメント。「商品により原材料の確保が困難な物がある。年末に向けて繁忙期に入るため、原料の確保等安定供給に努めたい。」「堅調に推移している。」との声。茶では「一番茶の需要は変わらず、2番茶・秋冬番茶はドリンク用の需要増に伴い、価格が上昇。」「茶園が減少傾向の為、需給のバランスがややとれはじめた。」とのこと。

『その他』…「新聞上では景気の回復が伝えられているが、地域の状況は厳しいままである。」「10月1日より段ボールの値上げやヤマト運輸の料金値上げがあると他業種から聞いた。中小企業としては、痛手である。」との声。

	好転%	不变%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	18.4	63.2	18.4	0.0	上昇
売上高	38.5	35.9	25.6	12.9	上昇
採算	12.8	64.1	23.1	▲10.3	上昇

〔建 設 業〕 景気ムード…【安 定】

『総合建設』…「人員、人材不足である。特に専門有資格者不足は問題である。」との声。「非常に不安定だと思う。過当競争により適正価格での取引ができない状況が続いている。健全な経営を目指している会社への影響は大きい。正常な取引ができるよう、事業者は健全経営を目指してもらいたい。」とのコメント。「今までと変わらず発注が少なく、景気の上向きは感じない。」「公共工事の減少、製紙関連の設備投資の減少及び民間工事の価格競争により粗利益が減少しており厳しい。」など厳しい声が寄せられた一方「需要は多少増加してきたように思える。」との声も。

『建設関連』…「労働時間・作業環境等の規制強化に対し、対応できない事業者が出てくると思われる。」とのコメント。「益々過当競争になると思われる。」「相変わらず売上単価は上がらず、仕入価格は下がらない為、利益が出ない状況が続いている。」「売上減に伴う利益減と人員・人材不足により見通しは暗い。」との一方「取引先の業況が総じて良く、積極的に設備更新等に取り組んでいる。大手製造業は、コンプライアンス、危機管理リスクへの対応に前向きである。」「クリーンセンターの造成工事が始まり、官公の仕事が少しずつ増えてきている。また、沼津のららぽーとの工事も着工し、来年以降は明るくなるのではないか。」との声。

『土木関連』…「若い働き手がない。」「人員確保のための経費、製造・運搬経費の高騰に伴う材料仕入価格・販売価格の上昇が見込まれる。」とのコメント。「公共工事の減少に歯止めがきかない。」「低価格の受注が見受けられ、下請け業者は苦労している。」「富士地区は過当競争が続いている。今後も続くと思われる。」との声。一方「富士市では、10年ほど前から生コン工場の集約化（工場数12→6）が進められた結果、1工場あたりの出荷量は確保されている。それに加え、今年は民間需要も順調なものもあり、年度内はある程度の需要が見込まれている。」「仕事量は増えている。」とのコメント。

『一般住宅』…「需要があるようだ。」「大工及び建築下職は堅調に推移している。」「受注した物件が一段落した状態。9月に入って次の物件の話が出始めている。」との声。「人口減による根本的需要低下が気になる。しっかりした対応力を身に着けることが重要。」とのコメント。

『その他』…「工場用地等が不足していると聞いた。」「葛飾北斎の浮世絵『富嶽（ふがく）三十六景』の一つ『駿州片倉茶園ノ不二』が、富士市から見た風景という可能性を探る市民プロジェクトが始動する。富士市から望む富士山の光景を文化資源として生かす取り組みであり、決め手を見つけて文化の発展につなげていけたらと思う。」「高島付近にホームセンターのカーマ（小規模）ができる。相乗効果で人の流れがよくなればと思う。」「富士市の都市計画は26万都市としては、非常に残念に思う。2市1町が合併したもののが変わっておらず、富士市として紹介できるものもない。百年の大計で富士市の将来を考え実行してもらいたい。」とのコメント。

	好転%	不变%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	20.7	58.6	20.7	0.0	上昇
売上高	37.9	37.9	24.1	13.8	上昇
採算	17.2	58.6	24.1	▲6.9	上昇

〔卸 売 業〕 景気ムード…【低 調】

『機械器具』…「新車販売は好調のようだ。しかし、補修関連に於ける部品需要は、エコカーや衝突防止機能搭載車の保有台数が全体の10%を超えてきた為、減少している。」「中国、日本の半導体関係の需要が旺盛な為、国内メーカーでは欠品、納期の大幅な遅延が発生している。主要部品の為、他業種にも影響が大きい。」「家庭紙については新設の工場が来年稼働予定であることなどから堅調だが、洋紙その他は今後も伸び悩むと思われる。」との情報。「全般的に好調であるが、ピーク感もあり、今後は不透明である。総選挙の影響も気になる。」「東京オリンピックなどにより内需が見込まれている間は、順調に推移すると思われるが、今後は不安定な要素があり、景気は後退していくと思われる。」との声。「インタ

一ネット上で、多くの工具類が販売をされており、我々としては競合を避けることを考えて行かなければならぬ。」「販売の目玉になる商品がなく、積極的な営業に繋がりにくい。しばらく好転する材料が無いと思われる。」とのコメント。

『紙』…「秋の仕入価格が値上がる予定であるが、販売価格に転嫁できず見通しは最悪である。」との声。

『製紙原料』…「板紙は好調、洋紙は不振。」「家庭紙の原料が大幅に減少している。」との情報。「中国政府の環境規制強化により、来年1月1日より未選別のミックス古紙は、中国への輸出が禁止される。また、輸入ライセンス枠がなかなか認可されない状況にあり、先行きにやや不透明感が増している」「業界の動向として、比較的利益率の良い産廃分野に進出する企業がみられる。古紙のリサイクル率の上昇に伴い、回収業者間の競争が益々激しくなると感じられる。」とのコメント。

『再生資源』…「鉄材屑は東南アジアへの輸出が好調な為、値上がりしている。銅系は中国・欧州が景気回復に向かっている影響で需要が増加し、国際価格は上昇しているが、中国の実需は予想の範囲内で、投機主導の思惑があり楽観できない。」「価格面は好調だが、北朝鮮問題で米・中・ロがどのように動くかで変わる。」との声。「鉄鋼製品は、中国が安値売りを行わなくなった為、東南アジア市場も平常に戻りつつある。特に中国政府は品質の悪い製品の規制に入り、不良メーカーが減少した。中国の対応により韓国、ベトナム、インドネシアの各電炉はやっと平常に戻りつつあり、原料スクラップも上昇傾向である。」「鉄鉱石・石炭の価格上昇および鉄スクラップの需要増で輸出価格は上昇する見込み。トピックとして中国は9月より再生原料である古紙、雑品(鉄くず類)、プラスチックの輸入規制を実施。今後、注目される。」とのコメント。

『建築材料』…「老人ホームやビジネスホテル、マンションの建設現場が多く、景気上昇傾向と言われているが、下請けへの工事価格は大変厳しい。適正な価格で受注できるような体制づくりはできないものだろうか。」とのコメント。

『工業薬品』…「岳南排水路等の休転により販売が減少したが、今後は年末年始需要に向けて生産量の増加が見込まれる。」「建設関連に使用される関係品において一部需要が増えた。オリンピック特需だろうか。」との声。「一部仕入品の値上げがある為、少々不安がある。」「家庭紙は好調だが、印刷用紙は不調であり、状況は当分変わらない。」とのコメント。

『その他』…「最近、マンションの工事が多い。ターゲットを資金力のある老人世帯ではなく、他県を含めた子育て夫婦に特化したマンションを市と連携して創るのも面白いと思う。」との声。

	好転%	不变%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	17.4	56.5	26.1	▲8.7	下降
売上高	39.1	26.1	34.8	4.3	下降
採算	26.1	34.8	39.1	▲13.0	横ばい

〔小 売 業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「業界全体は厳しい状況である。専門店が軒並み閉店しており、かなり悪化している。」「価格競争が続き、販売価格の値上げが難しい。」「先が見えない。」とのコメント。「着物の需要は、相変わらず減少している。絹の製造業界も多様化し、着物以外の商品を製造している。」との情報。

『各種食料品』…菓子では、「和洋菓子専門店は、コンビニの影響による売上の減少や後継者難により廃業に歯止めが掛からない。」「人手不足の慢性化を原因に荷重労働を強い結果、定着率の低下に繋がるという悪循環の連鎖が続いている。」との声。「菓子業界は他業種から高収益業界と目され、異業種からの参入が加速している。今やコンビニ、ネット通販での購入は30%近くまで迫っている。更に、大手ドラッグストアがスイーツ部門への参入を予定しており、今や菓子業界も大手流通との戦いの場と化した感がある。これをチャンスと受け止め、徹底した差別化、ブランド化、人財化を図って行く。」とのコメント。「不況に強いと言われた業種だが、大手の参入等により倒産・廃業する店舗が目立つ。富士本町商店街にコンビニが出店するようだ。活性化のきっかけになって欲しい。」との声。青果では「大型スーパ

一の価格競争により、個人店の売上は低下している。」茶では「生産量減少に伴い価格が値上がりしている。」「静岡茶への添加物使用などを原則禁止した県製茶指導取締条例の廃止案に関するパブリックコメントの結果が公表され、注目を集めた。寄せられた 167 件のうち、条例廃止に賛成する意見は 4 件にとどまり、県は県議会 9 月定例会への議案提出を見送る方針を改めて示した。」との情報。「昨年 12 月制定された『静岡茶愛飲促進条例』の普及による需要拡大に期待している。」とのコメント。

『日用品・雑貨』…「長期休暇時の天候不順により、サマーグッズの売れ行きが明らかに悪かった。観光物産品卸にも影響が出ていると思われる。」「通販を始め、まだ成長途上で絶対額は小さいが、順調に推移している。」とのコメント。

『自動車』…「国内市場で SUV（多目的スポーツ車）市場を広げる動きが活発化している。長らく続くセダンの低迷やミニバン人気に代わる新たな選択肢として、SUV に対する期待は高まっている。」との情報。「次世代を担う整備士が育っていない。」との声。

『自転車』…「度重なる売価上昇により消費者が離れている。各メーカーの販売台数は、昨対マイナス傾向であるが、電動アシスト自転車の需要は伸びており、50 万台を突破。」「2018 年度は生産・販売もマイナスとなる見込み。」との声。

『家電』…「業界ではスマートライフ事業、スマートライフコンシェルジュを取り上げ、高齢者のお宅に家電製品の配達や修理等に訪問した際に役立てていこうとしている。」との情報。

『機械器具』…「顧客の高齢化による廃業が少しずつ増えてきているが、新規顧客獲得の見込みがない。」との声。

『その他』…「空き店舗が多い。かつての商店街にするには建て替えをするしかないと思う。」「商店街は空き店舗が多く、対策をとらなければ、もっと早いスピードでシャッター商店街化していくと思われる。」「中心市街地といわれる全国の商店街が継続して残っているのは何割ぐらいあるのだろうか。今後、商店は不要になるかもしれない。」とのコメント。「大都市、大企業中心の景気拡大、また地方の実体経済が上昇しているなどと聞くが疑問である。」との声。「商店街では老舗の閉店が続き、夜の飲食店の出店が多くある。まちづくりの観点はさておき、30 代の若手オーナーもあり、刺激を受けている。」「吉原商店街に英会話教室がオープンした。代表はもちろん若い外国人講師も商店街のYWC（吉原若だんなクラブ）に入り、商店街の活性化に協力してもらえそうである。オープン時より商店街の仲間で盛り上げ、お互いに良い環境づくりをしていきたい。」とのコメント。

	好転%	不变%	悪化%	今期 D I	来期予測
業況	5.0	40.0	55.0	▲50.0	上昇
売上高	20.0	25.0	55.0	▲35.0	上昇
採算	5.0	40.0	55.0	▲50.0	上昇

〔サービス業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「個人店は相変わらずコンビニ等に設置されている安価なコーヒーにより、売上が伸びず苦戦している。」との声。「昨年の夏ほど材料の高騰もなく、仕入・売上も安定している。」「大きな変化はなさそう。涼しくなるとイベントなどで外出する機会も多くなり、売上も上がってくると思う。」とのコメント。

『クリーニング』…「清掃用具レンタルの減少は 10 年前よりは鈍化しつつも微減が続いている。ロボットクリーナーや売り切り品等への移行が続いているためだと思われる。」「人手不足への不安感は続いているが、設備投資にも踏み切れない。」との声。

『運輸・倉庫』…「物流の業界は少し良いと思う。来年にかけて、少しずつ上昇していくと思われる。」「年末に向けて繁忙期に入ってくる為、需要は増えてくると思われる。軽油の価格が、じわじわと上昇しており、物流業界にとっての生命線である為、今後が不安である。」とのコメント。

『不動産』…「需要は安定している。宅地分譲用地の仕入地が減少している。」一方「相続等により、土地を手放す人が多く、分譲地が過剰である。」との声も。「引き合いがあり、成約も増えている。工業用地

の需要があるが、まとまった面積の土地が見つからない。チャンスを逃さぬように業者間での情報共有も大切だと考える。」「中小企業の景気動向は、悪いと言いながらも業績は伸びていると聞く。リーマンショック時に大きな負担があったことで、慎重な意見が多くなっているようだ。」とのコメント。

『旅館・ホテル』…「急激なホテル建設・開業に対策が追いつかない。」「8月は例年通りに盛況だったが、今後は新規に参入してきたホテルの影響が懸念される。」との声。

『旅行業』…「秋の旅行シーズンを迎え仕事が多少増えているが、週末に集中する為、旅館・バスの手配が大変である。」とのコメント。

『各種学校』…「中部・西部地区での料金低下の余波が来ている。また、合宿免許の需要増加による通学生の減少等により厳しい。」との声。

『求人広告』…「競合他社との過当競争により、販売価格の低下が見受けられる。」「求職者人口の低下による採用難が突出している。根本的な人口増加の対策が必要である。」とのコメント。

『専門サービス』…税理士事務所では「中小企業の業績が、以前に比べ業績は安定してきている様子。しかし、人手不足の問題は各業界に及んでいる。」「当業種は、中小・零細企業の売上が安定しつつあることから、比較的安定している。」との一方「廃業事業者の増加、クラウド会計の参入により、税理士業界は厳しい。」との声。労務士事務所では「過当競争である。」とのコメント。

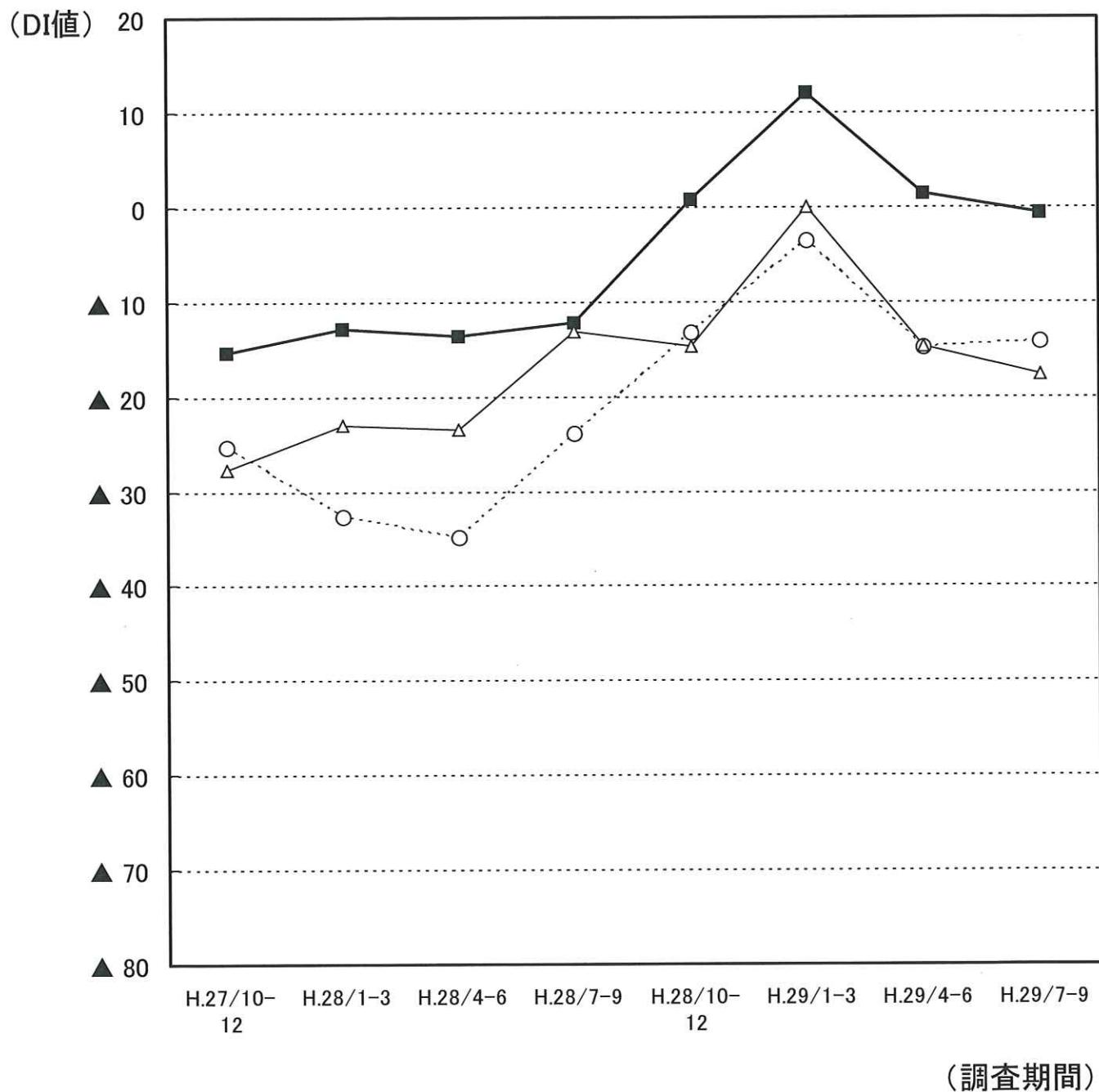
『イベント・企画』…「官公庁関係の値引き要請が大きい。」との声。

『その他』…「イベントがある時は盛況であるが、その時で終わってしまう。空き店舗の活用ができればと思う。」「大渕地区では富士ブランドとして『らっかしょ』を販売している。『しなす』が美味としているが、地元以外の方は『しなす』について理解しない為、食べ方の注意書き等を添えるなど、販売方法に気を遣うことが必要だと思う。」とのコメント。「雁提の彼岸花が美しい、これからはコスモスが全盛となる。新々富士川橋関連の工事が徐々に進んでいる。」との情報。

	好転%	不变%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	12.5	45.8	41.7	▲29.2	横ばい
売上高	16.7	50.0	33.3	▲16.6	下降
採算	16.7	45.8	37.5	▲20.8	下降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ⋯○⋯ 業況 △ 採算

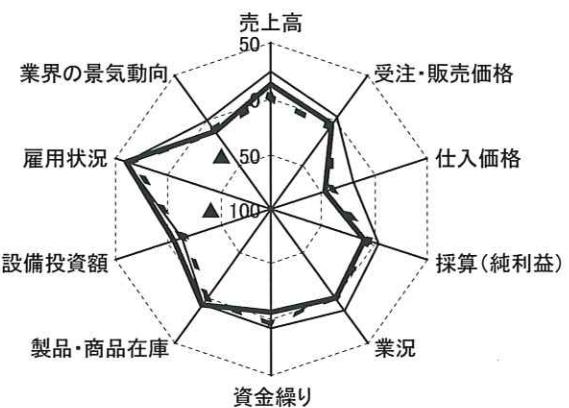


レーダーチャート

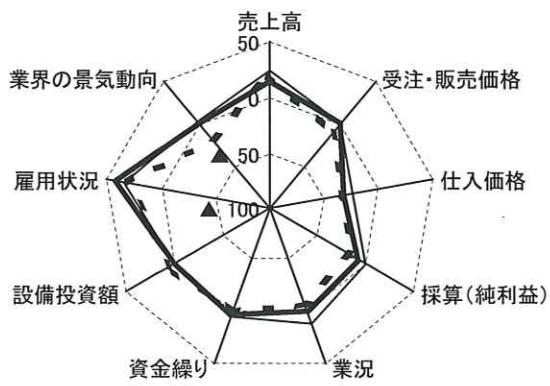
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比
来期予測
前回調査時

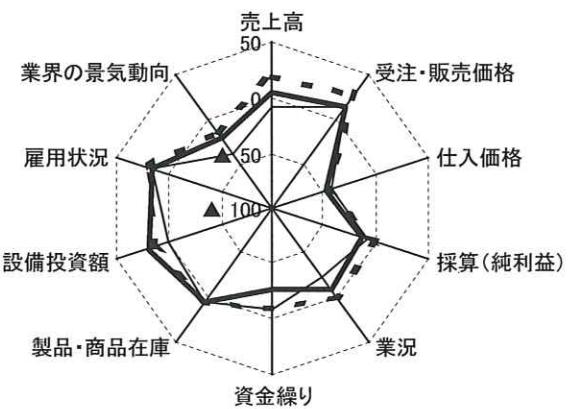
【製造業】



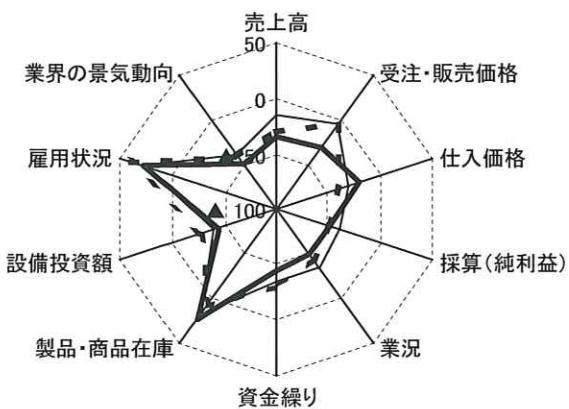
【建設業】



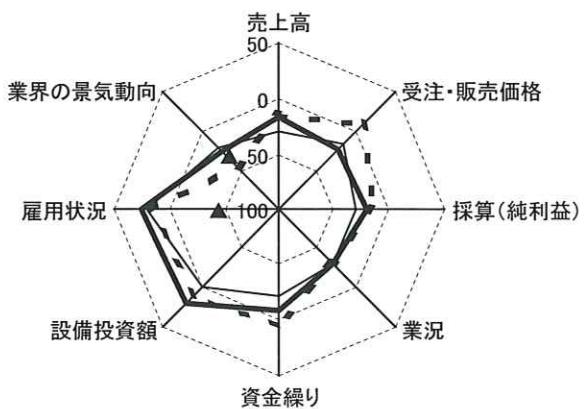
【卸売業】



【小売業】



【サービス業】

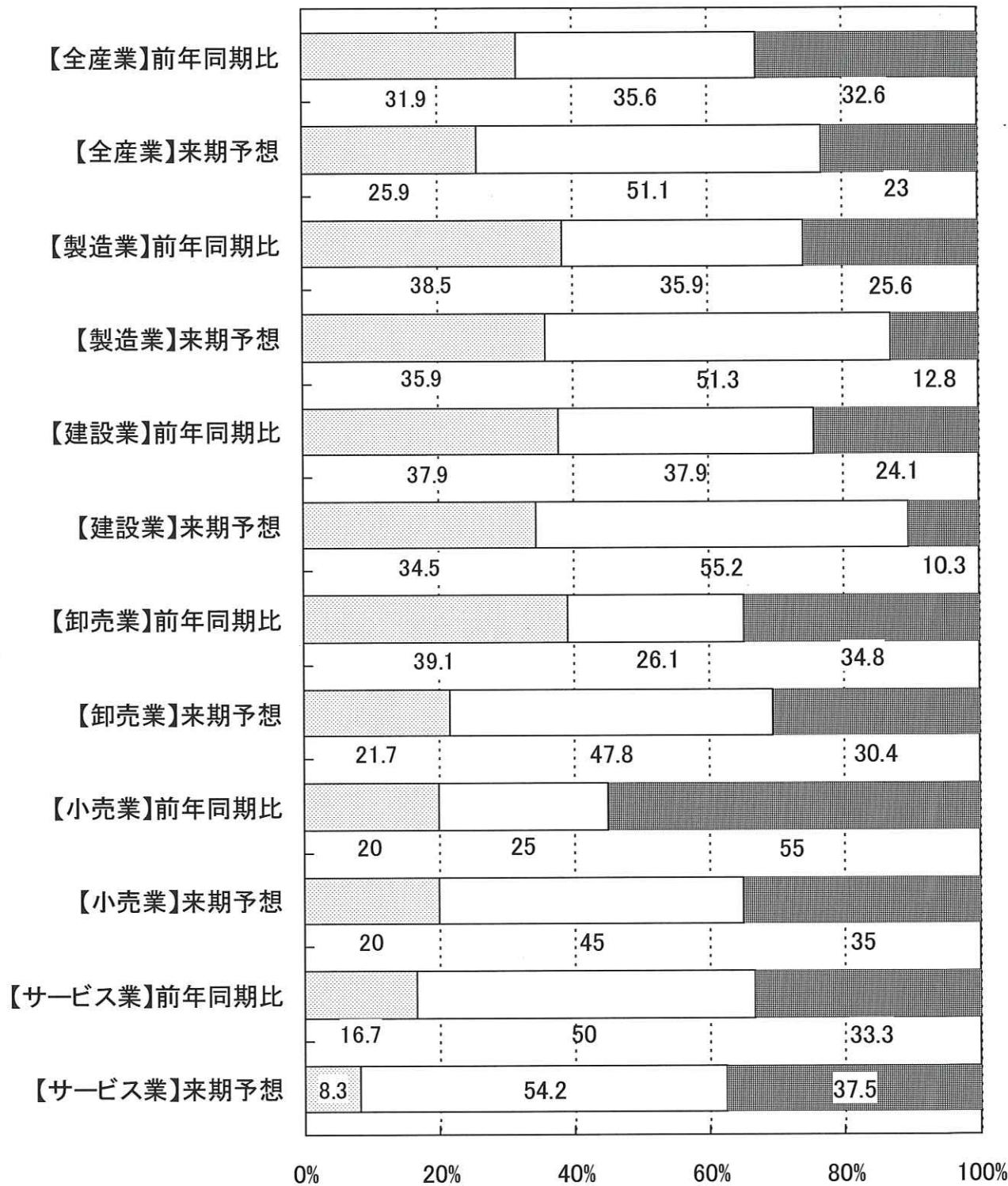


売上高の前年同期比と来期予測

□ 増加

□ 不変

■ 減少



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	1 位 人材不足 2 位 設備老朽化 3 位 販売価格値上げ難 その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇
建設業	1 位 人材不足 2 位 過当競争 3 位 売上減に伴う利益減 その他 官公需停滞／人員不足
卸売業	1 位 過当競争 2 位 人材不足 3 位 販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減／商品、原材料仕入れ価格の上昇 その他 その他の経費増大／売上、利益減による資金圧迫／設備老朽化
小売業	1 位 売上減に伴う利益減 2 位 売上、利益減による資金圧迫 3 位 販売価格値上げ難 その他 その他の需要の低迷／過当競争／人材不足
サービス業	1 位 過当競争／売上減に伴う利益減／設備老朽化 2 位 その他の需要の低迷／人材不足／人員不足 3 位 販売価格値上げ難 その他 販売価格の低下／人件費高騰／手狭な店舗、工場、倉庫等